

# 平成29年度 常置委員会だより N0.1

## 組織・連携委員会編

北海道PTA連合会

平成29年7月12日（水）発行

平成29年7月1日（土）に第1回常置委員会が開催されました。その内容をお知らせ致します。

1. 組織・連携委員会では、平成29年度、次のような内容で研究を進めていきます。

### 1 研究テーマ

『ともに学び、行動し、連携するPTA活動と活性化のための組織のあり方』

### 2 研究の視点

研究テーマを解決していくためには、「報告を受ける委員会」から「発信する委員会」へ運営を深化させ、各PTA活動を支援することができるような活動を推進することを指標とし、次の2つの視点に基づいて活動を進めていく。

\*何を学び、どのように行動するのか（いつ、何を、どこで、ともに学び、行動するのか）

そのためには、PTA活動を具体的、継続的に推進するための組織をどう構築していくかが大切である。

\*「誰と、どのように連携し、行動するのか」（誰と、どのように学び合い、行動するのか）

そのためには、連携する相手を明確にして、活動を構築していくことが大切である。

### 3 研究の内容

#### (1) 昨年度の研究の成果と課題

##### 【成果】

- 平成26年度に実施したアンケートの結果を基盤に、昨年度に引き続き、今年度も「学校・家庭・地域が連携して取り組んだ『防災教育』」に焦点化して研究を進めることができた。
- 焦点化してアンケートの分析を進めたことで「先進的な実践事例の絞り込み」や「全道への発信方法」について、有意義な協議が展開された。
- 「学校・家庭・地域が連携して取り組んだ『防災教育』」について、全道に紹介し、発信したい先進的な事例として、9事例に絞った。
- 全道への発信方法としてこの9事例を研究集録に掲載することと、道P連ホームページに掲載することを確認した。また29年度の小樽大会において、2事例については事例提言を行うこ

とも確認した。

- 次年度以降の先進的な事例の収集を実施していくためのアンケートの内容を教育・環境委員会と合同で検討していくことができた。
- 組織・連携委員会での取組内容を、本年度の十勝・帯広大会で報告・交流することができた。

### 【課題】

- 「PTA役員のなり手をどう増やすか」「児童生徒数の減少やPTA会員数の減少」などについても、現状をしっかりと見極め、全道的な取組事例を探っていく必要がある。
- 幅広い団体が連携を図り、取り組まれている実践事例を「防災教育」以外のどんなテーマで見つけ出していくのか。そのテーマの焦点化が急がれる。
- 各地区P・単Pと道Pとの架け橋として、常置委員会がどう役割を果たしていくのか。

### (2) 今年度の研究の方向性

今年度は、以下の3点を中心に研究協議を進めていく。

ア 平成29年度小樽大会での提言発表の分科会での進行の検討

イ 今年度検討したアンケートの集約及び先進的な実践事例を洗い出すためのテーマの焦点化

ウ その上でそのテーマをもとにした先進的事例の第1次絞り込み

## 2. 次の方々が道P連組織・連携委員会の研究を推進しています。

委員長 ②村井 為敦 (副会長・旭川市)

副委員長 ①菅原 康晃 (副会長・小樽市)

②加藤 保昭 (副会長・上川北部)

④横井 正樹 (副会長・北空知)

設楽 正敏 (副会長・道小校長会)

渡辺 秀行 (教師代表・小樽市立塩谷小学校長)

委員 ①荒井由紀恵 (石狩) ②本間 公浩 (旭川市) ②福島 靖弘 (宗谷)

②結城 慎也 (留萌) ③成澤 悟 (渡島) ④青木 一也 (胆振西部)

④島田 剛 (日高) ⑤田尾 航太 (オホーツク中部)

⑤佐藤 正人 (十勝) ⑤菱沼 和也 (釧路)

\*①②③④⑤は、ブロックを表しています。

\*各常置委員会のこれまでの取り組みは、道P連のホームページの「常置委員会」をご覧ください。

北海道PTA連合会事務局

〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 共栄火災ビル7階

TEL (011)251-6937 FAX (011)210-0929

Eメールアドレス [info@hokkaido-pta.jp](mailto:info@hokkaido-pta.jp)